

平成28年度千葉県産業教育審議会

平成29年3月3日（金）

午前10時から正午

千葉県教育会館 新館401会議室

○会長挨拶

県内には大学がたくさんあるが、県内の大学を卒業した学生が県内の企業に就職してくれない。このような状況が何年も続いている。そこで来週の月曜日に、産業界と大学との懇談会を開くことになっている。キャリア教育は大事だが、小・中・高とポツポツとやっている。本来は小学校から大学までトータルで考え、連続して行うものである。私はJETRO（日本貿易振興機構：ジェトロ）にも関係しているが、JETROやこの審議会も戦後できた。日本は戦争で何もなくなってしまったし資源もない国だから、技術力でよいものを作って世界に向かって売ろうという発想でできたのがJETROである。その後、日本経済はよくなった。昭和20年代の日本の時計は売れなかったが、昭和40年代になるとドイツのデパートなどでも一番いい場所に日本の時計が置かれるようになった。そのように時代が変わってきた。JETRO自体もそのような経済の動きに合わせて変えていった。それが産業界の動きとうまくマッチして、今日まで来ている。そのような意味では、この産業教育審議会も昭和26年の法律に基づいてやっているのはおかしいと思う。千葉県から変えていったらいい。教育行政の方々は、一言で言うと考え方が堅い。何か新しいことをやろうとか、改革していこうという意識が薄い。これからいろいろな意見をいただくが、千葉から変えていっていいのではないか。千葉中心部の活性化についてもいろいろ考えているが、それと同じように、みんなで変えていこうという意識を持って、この審議会を前に進められればいいと普段から考えている。

○協議事項等の説明（事務局）

- ・千葉県の産業教育の概要について（指導課）
- ・千葉県のキャリア教育の取組について（生涯学習課）
- ・スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールについて（指導課）

○議長

教育のつながりという観点で、これまでの教育を受けて大学に通い、社会人になっていくにあたって、この部分が足りないとか、ここは少し違うのではないかなということがあれば、冒頭に御意見いただきたい。

○委員

千葉市の教育委員会は、キャリア教育推進の連携会議を設けている。昨年からは市長の肝

煎の会議となっている。千葉市は大学生の人数によるのか、20歳ぐらいの人口が急増し、20歳代前半で急減する。やがて戻ってくるのが、40歳代、50歳代になってから。千葉市で学んだ若者が、千葉市に職業人として定着していない。このようなことは何とかならないかと。そこで、小・中・高・大や産業界の方々を含めて千葉市の魅力を発信し、子どもたちが千葉市で就職して暮らしていくようなキャリア教育を推進できないかという視点に立ち、産業界と教育界の結びつきをどうしたらいいかといったことについて、学校は何かできないかということを昨年度と今年度のテーマにしてきた。なかなかうまい結論はないのだけれど、今までのキャリア教育は小学校から高校まで行われ、そして、大学は大学で別にやっている。産業界との結びつきがそこにあるかという、職場体験をやらせてくださいとか、インターンシップをやらせてくださいという部分では結びついているが、千葉市の産業界だとか中小企業を含めた企業だとかを本当の意味で理解して、「千葉ってなかなかいいところだし、千葉県の会社で働きたいね。」と思わせるまでは取組が深まっていない。そこをどうやって深めていくのかということは、一朝一夕ではいかないと思うが、そこが課題である。大学の様子を見ていても、学生たちは就職に際して、その出身地に戻ることに必ずしもこだわらない。かといって、大学の所在地の周辺にこだわるわけでもない。結局、条件のよいところ、入社試験に合格したところを選んでいく。どこに行きたいという思いがあまりない。特に、千葉県にこんな会社があつて、こんな働きやすい環境があつて、今まで住んでいたところではないけれど、そこに勤めてみようかということになるような連携が、大学と地域の産業界との間にあるかといえば、それもない。大学を応援してくれる企業が何百社とあり、そこへの就職なども勧めてはいるが、それも大学と地域の連携から生まれたわけではなく、大学の卒業生が関係しているほうが多い。大学でも地域貢献などと言っているが、それも必ずしも産業界と結びついた取組ではない。教育の世界、特に大学と地域の連携については、最近意識はし始めているがまだまだ薄く、卒業生が、県や市などの地域の人材として定着していくということには、なかなかなりにくい。少なくとも、今まではなっていないという状況であると思う。

○議長

私も全く同感である。そここのところが産業界とうまくいっていない。これは教育委員会ができるかどうかわからないけれど、大学まで含めたキャリア教育というものをまずは論じて、その中で個別に入っていくということをしなないといけない。実際に採用とかの問題として出てくる。たとえば、人気のある大学の卒業生は「引く手あまた」である。商工会議所にもその大学の卒業生を紹介してほしいと企業から相談がある。しかし、それは個別の動きであり、流れとして結びついていないので、大学を含めたキャリア教育を考える時代に入ってきていると思う。また、確かに千葉の大学を卒業した学生が千葉で就職しない傾向がある。これは東京が近いということもあるが、大学のゼミの先生などの勧めや紹介の流れもある。そして不思議なことに商工会議所には地元大学の卒業生が多いが、地元出身者は少ない。こ

れは、大学4年間暮らしてみると、千葉って非常に住みやすいと実感として持つからではないか。私の孫の世代では、職業教育についてはほとんど考えず、学力の高い中学校や高等学校に入ることを考えている。しかし私の歳になってみると、高等学校や大学で勉強したことが意外と役に立っていない。私がよく言うのは、中学校までの学習をしっかりとやった人は、世の中で通用するということ。しっかりとやっていたら銀行の支店長だって務まると思う。今思い出すのは、中学校の時に学んだ職業課程とかの、数学や国語、英語ではない内容が役に立っていて懐かしい。そういう意味では職業教育というのは大事な一面を持っているので、大学教育を含めて幅広く議論した方がいい。今、実際に企業に入社してくる卒業生は、社員としてはどうなのか。

○委員

教育の一貫性ということの重要性については、私も従業員の教育において感じることもある。例えば、経営者候補を育成する段階において、不足している知識やスキルが多々ある。では、これが経営者候補の段階で身につくかといえばそうではなく、入社をした若手のころから、また30歳代40歳代の基幹従業員のころから学び続けるという一貫した教育が必要である。小学校から大学までの一貫した教育の重要性は、従業員の教育とまったく同じような意味合いを感じる。高等学校だけで教えればいい、大学だけで教えればいいということではなく、一貫して何を教えるために、どのタイミングで、どここのレベルまで、どのように教えるかということが必要であると考えている。弊社の従業員に対しても、事業全体を見渡すことのできる広い知識や能力を育成するゼネラリスト教育を実施しているが、環境の変化に対応していこうとすると、専門の知識が必要となってくる。では、専門性だけを身につけていけば組織の中で活躍できるのか、組織のマネジメントができるのかということ、そこにはバランスの問題があると思う。専門教育の中で、例えば、まったく異なるところから情報を引き出してくるネットワークの構築力であったり、戦略思考であったり、人間的な修養といった部分を学ぶことも、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業などで取り組んでいると思うが、非常に重要な視点であると思う。

○議長

工業高校を卒業して企業に入っても、再教育をする。その企業の従業員としての教育を施す。どこの企業でもそうだと思う。卒業した生徒は、世の中に出たあとに、どのように感じてどのようなことを言っているのか。

○委員

私の職場では直接就職していく子どもがいないので、そのような話を聞くことは少ないが、意外と子どもたちが覚えているのは、こういう指導をされたとか、授業中に話した教員の経験談のこととか、教科の中身として覚えたことよりも、その時に感じたことを覚えている

てくれていることが多いと感じる。キャリア教育が単発になりがちで、つながりがないというのは学校現場でも感じている。小学校だけを見ても、中学校だけを見ても、そこはつながらない。それぞれの成長段階での体験がどうつながるかを考えさせれば、どのような生き方を目指すかということが少しずつ育っていくと思うが、なかなか難しい。

○議長

小学生の段階では、どんな先生を好きになるかがポイントかもしれない。例えば、算数を教えることが得意な先生を好きになると、子どもも算数が好きになる。そういう意味では、先生は本当に大事。教育行政としても、主題を産業教育とするのではなく、教育全般の中で産業教育を考えていくほうが、子どもたちが世の中に出ていったときにいいのではないかと思う。産業系高校の就職率が高いのは知っているが、進学率はどうなのか。

○委員

本校の場合では、卒業予定者の約7割が就職。3年生になったころの就職希望者は6割程度だが、前年度の資料を持たせて家庭で相談させると、1割程度が就職に希望を変更する。これは、このような企業に就職できるのであれば、進学ではなく就職させたほうがいいと考えを変える保護者がいるから。進学は残りの3割で、大学と専門学校がそれぞれ15%ずつ。

○議長

工業高校は就職率が高いですね。商業は進学率が比較的高い。就職率が高いのは工業高校の特性かもしれないが、そのような工業高校の在り方は非常にいいと思っている。工業高校を卒業してその専門職でしっかりやっていくというのは大事なことで、先生にも頑張ってもらいたい。今は、子育ても大変で子どもが少ない。塾とかの習い事も大変。いろいろな意味で教育が歪んできている気がする。私は人事も担当したが、どこの大学を出たかなどは気にしないで、大学時代に何を一生懸命やったかを気にした。高校も大学に入るための予備校のような高校を卒業した人が、大学を出て産業界に入ってきて、決していい仕事はできないと思っている。でも親は、いわゆる進学校に子どもを入れたがる。そのような意味では職業教育にこだわらず、教育全般についていろいろな議論をしたほうがいいと思う。

○委員

今、看護系の大学が千葉県内にも増えてきている。しかし、関係の大学が増えたからといって、千葉県の看護師や医師の不足が満たされるかといえば、近隣の東京や神奈川に出ていく可能性が高いということで問題になっている。これまでの、小学校からのキャリア教育や産業教育を通して職業に結び付けていくという話としては、中学生が病院の現場に職場体験にきて、看護師や医師、検査技師、薬剤師などの仕事をみせる機会がある。中には、母親が看護師で、その働く姿にあこがれて自分も看護師になりたいと夢を持つ子が、高校生にな

ってふれあい看護体験として実際に看護の仕事を経験し、さらに看護大学に入学して看護師になるという、その過程が目に見えるケースもある。このように、幼いうちから看護師になりたいと夢を持つ子供がいるので、つながっているのかなと思う。ただ、千葉県内で看護師になってくれるかという問題もあるが、ここ数年の傾向としては、都内に出るというよりも自宅から通える勤務先を選ぶ若者が増えたと感じている。

○議長

私も、看護師さんにもお世話になることがあるので実態がよくわかる。看護師という職業を選んだという使命感というか、人の役に立ちたいという思いを強く感じる。看護師に限らず、こういう人たちが増えてくれるような教育ができるといい。普通の会社に一度勤めてから、そこを辞めて看護師になる人もいる。偉いと思う。私がお世話になっている看護師さんは北海道出身だが、千葉を気に入って北海道に戻る気はないと言いながら一生懸命やっている。職業とはそういうものだと思う。大きな企業に入ると、なかなか出世できないけれど、その中でみんな一生懸命やっている。自分なりの生きがいを見つけて頑張っている。そのような意味で教育は大事だと思う。

○委員

弊社の場合は、製鉄所での採用と全国での採用とが分かれていて、製鉄所採用では工業高校からの採用が中心となっている。しかし、県内の工業高校だけでは足りないので、昔から全国の工業高校からも採用している。キャリア教育に対する我々の思いは2つある。ひとつは、専門性の高い工業高校、工業高等専門学校が少なく、機械系、電子系を専門とする人材の採用に苦労しているので、高専等の充実をしてほしいということ。もうひとつは、社会人として適応性をもつ人材の育成。先ほどもあったが、特殊な仕事に就く人には極めて高度な専門性が必要となるが、それ以外の人は、基本的な素養があれば、それほど高い専門性が必要となるわけではない。あとは企業がそれぞれの教育プログラムに従って教育する。そこで、社会人としての適応性がないとか、成績はいいが線が細くすぐに精神的に参ってしまうとか、仕事に対する熱意がないとかでは困る。そういうメンタル的な部分で、多少やんちゃでもいいから太々しい人材を採用してほしいという現場の声が多い。この辺りをうまく織り交ぜて、専門性や学業だけでなく、社会人としての適応性の育成などを教育の中に盛り込めるといい。さらに、ものづくり産業に興味を持つ人に、ひとりでも多く入社してもらいたい。職場体験や千葉県夢チャレンジ体験スクールなどは非常によい取組だと思う。こうした体験スクールを受けた子どもたちが、高校、大学を出た後、どのような業界に就職したのかを追跡調査してみるのもいい。また、仕事を選ぶうえで、この体験スクールがどう影響したのかを調査するなどして、どうやったらものづくり産業に興味を持つ子どもたちを増やしていけるかを考える参考にするのもいいと思う。

○委員

最近は、県内のハローワークでも、子どもたち対象の職業講話を実施する傍ら、保護者にも雇用の形態や求人傾向について説明している。千葉労働局が本日報道発表した平成29年3月卒業予定者の就職内定状況によると、大学・短大の卒業予定者の内定状況は過去最高を更新している一方、高校卒業予定者の状況は、昨年同期比で1.4ポイント減少となっている。しかし、高校生が縁故等ではなく学校やハローワークを通して就職を希望する人数は、昨年同期比で4.8%増加した。この傾向は、これまで大学卒にしか求人を出さなかった企業が、高校卒まで求人を広げたこともあり、このような企業があるならば進学ではなく就職させようという保護者が増えたことによる。それに比例して、就職内定者の人数も増加している。求職者数が増加したことにより、就職内定率が前年同期比で1.4ポイント減少してしまっただが、現在もハローワークを通して生徒の皆さんには個別の支援をしているところであり、卒業しても6月まで支援を続け、内定率100%を目指している。また、新卒者に限らず、既卒者対象の求人数もかなり増えている。

○議長

時間外労働の問題が起きて、いろいろと労使協議が行われているが、経営者の考え方が大事だと思う。なぜ大学への進学率が高くなったかと言えば、大学卒でないと企業の中で出世していかないと壁があるからかもしれない。実力次第で出世していくといった風土がまだできていない。これは日本全体の問題だと思うが、そのようなことを経営者側も考えていったほうがいいと思う。給料も年功序列ではなく、そのポストに支払う職務給が増えていて、出世すると給料も増える。だから大学への進学率が高くなるのかもしれない。

○委員

専門高校というのは、農業、工業、商業、水産、家庭、福祉、情報などといった職業教育を行う専門学科を持つ高校だが、この職業教育に意欲をもって取り組む生徒をどう育てていくのかというのが、専門高校におけるキャリア教育の課題である。40年ほど前の話だが、私が商業高校の教員だった頃に、当時の新生入生にアンケートをとったことがある。その頃は商業の勉強をしたいと思って入学してくる生徒は半分ぐらいで、あとの半分は、普通科高校に行きたかったが入れなかったという生徒だった。商業の勉強をしたいと思って入学してくる生徒も、商業高校ではどのような勉強をするのかを知っていて入学してくるわけでもない。商業高校に進学すれば就職に有利だからということで入学してくる生徒もいる。このような生徒に意欲を持って商業教育に取り組みさせる、工業教育に取り組みさせるというのが、職業高校が抱えているキャリア教育の課題である。(手元の教科書を示しながら)これは、家政科で学ぶ生徒が原則として全員履修する基礎科目「生活産業基礎」の教科書である。この教科書の最初のほうに、家政科がどのような学習分野から成り立っているか、そしてどのような科目があって、どのような勉強をするのか、そしてこれらの勉強をするるとどのような

資格が取れて、どのような仕事に就くことができるかということを表にして示してある。このようにその学科で勉強することの意味とか、勉強するとどう将来につながるのかということ、専門高校のキャリア教育としてきちんと行うべきである。商業科では「ビジネス基礎」、工業科では「工業技術基礎」という同じような原則履修科目があるが、必ずしもそれらの教科書に同じような表が示されているかといえばそうではない。商業科で勉強するとこんな資格が取れる、工業科で勉強するとこんな将来につながっていくといったことをしっかりと意識させていくことが専門学科におけるキャリア教育として重要である。すでに実践している学校もあるだろうし、全ての学校で必ずやらなくてはならないとまでは言わないが、入学時にその学科で勉強する意味をしっかりと教えるということ、キャリア教育の一環として取り組んでほしいと思っている。そのことが、よりよい商業人や、よりよい工業人を育てていくことにつながると思う。そのような点でいうと、看護科は別格。看護師を目指す生徒の集まる看護科は、入学時から高い使命感を持っている生徒がほとんどである。今は看護師の養成も高校3年間ではできず、最低でも5年間かかるようになった。高校教育が看護師の育成から徐々に撤退し始めているようにも感じられ、個人的には頑張してほしいと思っている。保育士もかつては高校で育成できた。ところが、高校3年間の育成では保育士養成の教育として不十分であるということで、今はできなくなった。以前のようにできれば、近年、問題になっている保育士不足はこれほど深刻にはならなかったかもしれない。資格が高度化すると、その分野の人材の育成が難しくなってくるという側面がある。

○議長

それでは、そろそろ時間となりました。本日は皆さんからいろいろな御意見をいただきましたが、最後に副会長さんからまとめていただく。

○委員（まとめ）

（各委員の発言の要旨を、まとめとして紹介いただいた。）

○事務局

本日は、委員の皆様方から、多岐にわたる御意見や、今後対応していくべき課題等をいただきました。いただいた御意見を持ち帰り、事務局で整理し議事録にまとめさせていただきます。そして、皆様からいただいた御意見については、前例にとらわれず、今後の千葉県の産業教育やキャリア教育の充実、活性化が図れるように、教育委員会として務めるとともに、各学校等にも幅広く情報を発信して参ります。以上、本日の審議会を経ての今後の流れとして、提案させていただきます。ありがとうございました。

○議長

産業教育を含めた新しい教育は千葉県からという意気込みで、教育委員会の皆さんには

頑張っていたきたいとお願いしまして，閉会とします。ありがとうございました。